

松本養護学校信濃学園分室視察報告

5月19日（火）長野ろう学校保護者2名、職員4名で視察に行つて参りました。松本養護学校信濃学園分室で学ぶ子ども達は、県が考える三輪校舎のイメージに近いということです。

信濃学園は、知的障害児者の入所施設で、そこで生活する子どもたちのための義務教育の場として地元小中学校の分室が設置され、現在は、松本養護学校の分室となっています。

- ・児童数は、小学部12名。
- ・職員は、校長、教頭、養護教諭は本校との兼務、教員は6名、事務の先生はおらず、連絡等は教員が兼ねている。（職員室）
- ・学年ごとの教室ではなく、課題や人間関係などを考えて、12名を2クラスに分けている。
- ・教室は、ホームルーム2部屋の他に学習室とプレイルーム、音楽室、12m×14m位の小体育館。
- ・食堂は、信濃学園と共有で6m×16m程の部屋をパーテーションで分け利用している。（普段は6m×8m）厨房は一緒。



校舎全景:手前が体育館奥が校舎

【教室の特徴】

- ・ロッカーなども何がどこに入っているのかきちんと分かるように表示され、整然とし、一日の日課も何をすればよいかがはっきりと分かるように表示されている。
- ・各教室に本を寝ころんで読んだり、くつろいだりできるように、カーペットを敷いてある一角がある等。

【カリキュラムの特徴】

- ・個別学習を特色として据え、それぞれの課題に応じて、一番頭がすっきりしている朝の時間に個別学習をしている。（この日は、漢字の練習をしている子、算数の位の練習をしている子、物と名前のマッチングをしている子、・・・等々。それぞれの課題に応じて学習をしていました）。
- ・この分室で、基本的な力をつけ、地域の学校に戻りたいという希望の保護者の方もいる。いろいろな選択肢を選べる、そのニーズに応えるためにも個別学習を大切にしている。
- ・個別の次は、体力作りも大事なので体を動かす時間。
- ・個の力が生きるようなグループ別の課題学習の時間。

個別指導学習:それぞれの実態に合わせて
この分室の一番の魅力であり特色

- ・午後の時間に全体で活動する生活単元の時間を入れている。

【配慮していること】

- ・情報が多くなりすぎないようにけいな物は置かない、言わ

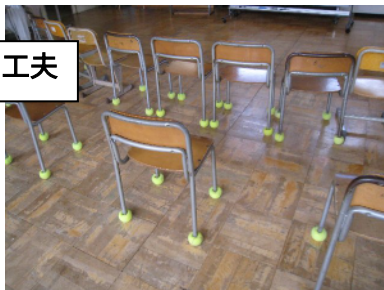


ない。

- ・聴覚刺激に過敏な子供たちも多いので、椅子にはテニスボールのクッションを付けたり、先生方も決して大きな声を出さず、静かな雰囲気が大切。

この点では、やはり、お互いの環境を守るための校舎配置や設計が必要なのだろうと感じました。

音の響かない工夫 サインボードの工夫



保護者の感想から

- ・やはり、教頭先生は分校には必要。責任を持てる人がいないのは問題。建物の分離の必要性も感じた。静かな環境の必要性のために。気持ちの問題ではなく、環境の確保と補償、お互いのために守ってあげたい。体育館は、小体育館があった方がよいと思う。何でも一緒に無理な部分が多いので、子ども達の動線や指導内容で棲み分けをするなどの工夫が必要。必要なところには、鍵も必要。（分室は、食堂にも鍵がかかっていました。）
- ・人数にあったサイズの建物、バランスが必要。また、どういう子供たちがくるのか。まずは、カリキュラムをしっかりと打ち出して、PRをしていかなければ。
- ・将来的にどこに行ったらよいのか、とか、いろいろなことを含めてアドバイスしてもらおうところ（これが支援センターの役割になると思いますが）はやはり必要。（長野養護学校も望んでいる）それができる場所だということが設計上も、建物としても実現できるように。



課題学習:1～6年全体で音楽に合わせて



体育館:人数に合わせては良いサイズ



信濃学園外観:この右隣が分室



信濃学園内にある食堂間仕切りで仕切られている